

抗 議

米軍の垂直離着陸輸送機 MV-22 オスプレイは、一昨年の 4 月にモロッコ、6 月に米フロリダで訓練中に墜落して死者を出すなど、開発段階からの墜落事故は 8 回を数え、36 名が死亡している。

一方、米国本土のニューメキシコ州やハワイ州でも計画していたオスプレイの低空飛行訓練については、住民の強い反対により中止するに至っている。

こうした危険な状況があるにも拘らず、日米両政府は沖縄県宜野湾市の普天間基地に MV-22 オスプレイを 24 機配備して本格運用を開始している。

墜落事故が多発する危険なオスプレイの配備は、日本全土を訓練区域にして、自由に飛び回ろうとする画策は粉碎されなければならない。

オスプレイが欠陥機と言われるゆえんは、飛行中にエンジンが停止した時に作動するオートローテーション機能が無いためである。

また、航空機が安全に飛ぶためには、日本の航空法に添って設計し制作されなければならないが、オスプレイは軍用機であるために適応されておらず大変危険である。

さらにヘリモードから固定翼モードの移行に 12 秒かかり、約 500 メートル落下すると言われ、500 メートル以下のヘリモードで飛行していたら墜落する大惨事を起こす可能性がある。

オスプレイの日本への配備は「米国がアジアを重視するリバランス（最均衡化）に資するものである」と言われている。

このように世界各地の軍事支配を優先させ、国民の命を軽く見る日米の軍事政策を絶対認められない。

厚木基地周辺は、240万人が住む超過密地域であり、墜落したら大惨事になることは明らかである。

先般の第四次厚木爆音訴訟の判決の中でも、航空機事故に対する不安などの精神的苦痛が、住民の生活の質を損なわせている一つの要因と認めている。

厚木基地周辺住民は、米空母艦載機の爆音だけでも深刻な被害を受けており、これ以上の航空機墜落事故の不安や爆音被害を振りまくことは認められない。

垂直離着陸輸送機 MV-22 オスプレイの厚木基地飛来に強く抗議するとともに、オスプレイ訓練飛行の全国展開を直ちに中止し、米国本土に撤収すべきである。

2014 年 7 月 15 日

オスプレイの厚木基地への飛来に抗議し

日本配備撤回を求める大和集会